

1. 位置・地勢・面積・人口

能代市は、秋田県北西部に位置し、東は北秋田市・上小阿仁村、西は日本海、南は三種町、北は八峰町・藤里町に接しています。また県都秋田市には60キロメートル～80キロメートルの圏内にあります。



東北地方を縦断する奥羽山脈に源を発する1級河川米代川が市域の中央を東西に流れ日本海に注ぎます。下流部には能代平野が広がり、その両側は、広大な台地が広がり大部分が農地として活用されています。また東南部は、房住山を主体になだらかな丘陵地となっています。西部は、日本海に沿って南北に砂丘が連なり、湖沼が点在しています。

気候は、四季の移り変わりが明瞭です。対馬暖流の影響により、年間の平均気温は10度前後と温暖ですが、冬は低温で日本海側特有の北西の強い季節風が吹き、降雪日数は平均70日程度あります。

面積は426.950平方キロメートル（東西約30キロメートル、南北約35キロメートル）で、秋田県の面積の3.7%を占めています。地目別では、山林・原野が26.4%（約113平方キロメートル）、農用地が20.2%（約86平方キロメートル）で、宅地は4.1%（約17平方キロメートル）となっています（平成22年1月1日現在、平成22年版「能代市の統計」から）。

能代市の人口は、能代市と二ツ井町が合併した平成18年には63,985人であったが、その後年々減少しており、平成28年には55,784人となっています。

※面積は国土地理院が電子国土基本図から直接計測する方法に変更したことにより平成26年10月1日付けで修正

2. 能代市の概要

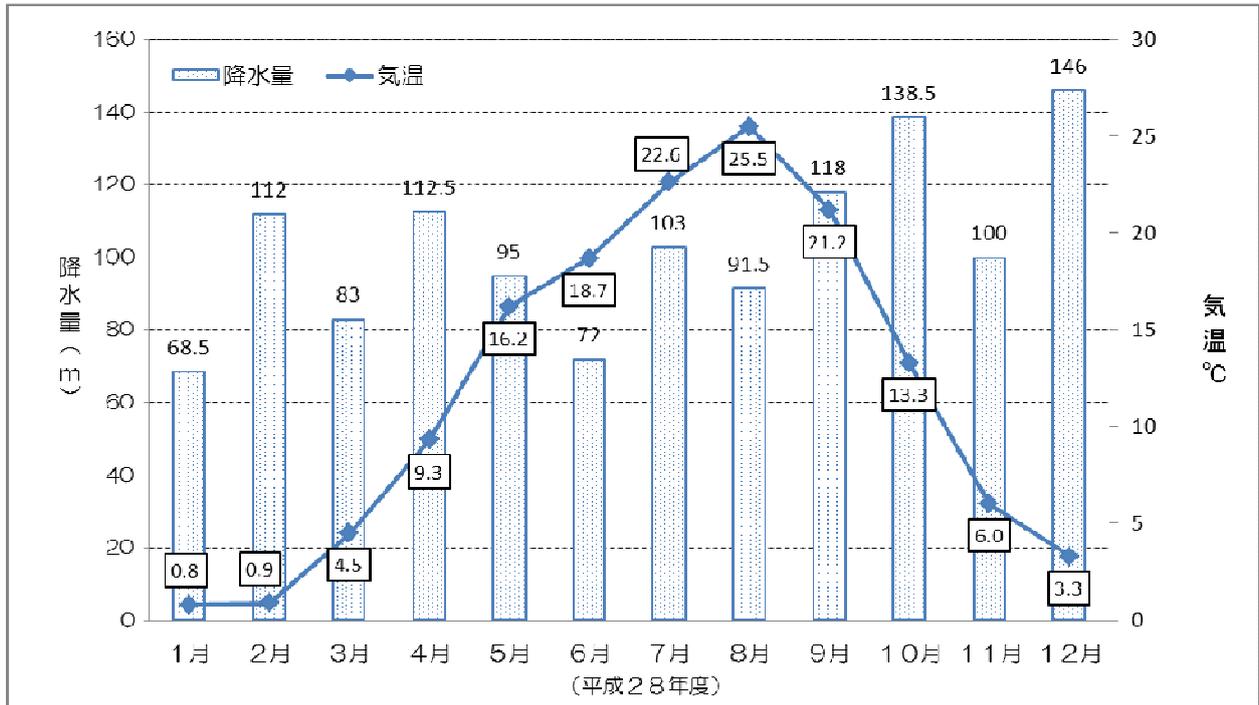
母なる米代川で固く結ばれた能代市と二ツ井町は、地域の生き残りをかける強い意志をもって合併し、平成18年3月21日に新しい能代市が誕生しました。

これまで、先人のたゆまぬ努力によって、個性と伝統ある文化や風習が培われ、さらには地域の活力につながる社会基盤も着実に築かれてきました。

世界自然遺産白神山地と、それに連なる山々、今に受け継がれる風の松原、夕日を鮮やかに映し出す日本海は、地域の誇れる宝です。

高速道路の整備が進み、インターチェンジが相次いで開通しました。エネルギー港湾として発展してきた能代港は、秋田県北部に展開するエコタウン構想と相まって、リサイクル関連貨物を取り扱う拠点港【リサイクルポート】として期待が高まっています。

能代市の年間降水量と気温



能代市の人口の推移

